

2012年7月 復興の地「いわき」を訪ねる

基本データ

クラブラン実施日	2012年7月15日
クラブラン名称	復興の地「いわき」を訪ねる
コース概略	JR湯本駅 ⇒ 白水阿弥陀堂(しらみずあみだどう) ⇒ JR内郷駅 ⇒ 「新川」堤道 ⇒ 「夏井川」堤道 ⇒ 夏井川河口サイクリング公園 ⇒ 塩屋崎灯台 ⇒ 小名浜 ⇒ JRいずみ駅 走行距離 48.5km GPS ログ: http://yahoo.jp/1zo2oT
集合場所	JR常磐線湯本駅 09:45 集合 10:45 出発
担当者	O湖
レポート担当者	T崎、M野、T本、N雲、H本、O橋、O湖
参加者	S石夫妻、T崎、M野、T本、N雲、O橋、H本、O湖 計9名
天候	曇りのち小雨のち曇り 行程の殆どが弱い追い風、もしくは無風

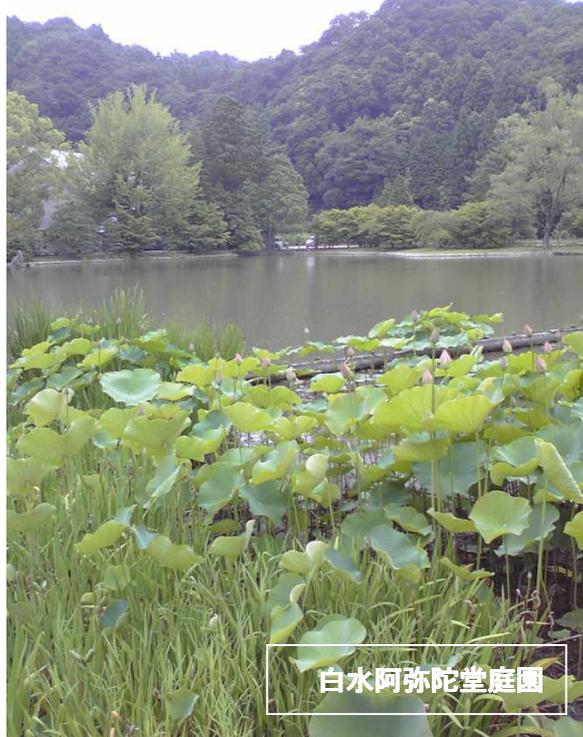
レポート(T崎)

「いわき夏井川サイクリングロードと小名浜海岸に行く」

白水阿弥陀堂(しらみずあみだどう)で昼食休憩。福島県唯一の国宝とか。庭が美しいとのことで、今にも咲きそうなハスの花を見ながら散策。

この建物とご本尊は修復中で、お目にかかることはできなかった。さあ、出かけよう…としたとき、T崎、後輪のパンクを発見。

ここでO湖さんによるチューブ交換講座が開始された。詳細は割愛するが、この間、解説付きで30分。鮮やかな手つきに見入る。



白水阿弥陀堂庭園



夏井川サイクリングロードから河口、太平洋沿いを走ると、熱い風と寒いほどの冷たい風が交互に感じられた。小雨は降ったが、気温が比較的高いので、かえって快適な雨だった。

首都圏と違ってサイクリングロードとは言ってもサイクリングをしている人に出会ったのは3人ほど。

海の近くの集落では被災した住宅の跡が基礎だけ残っており、痛々しかった。ひまわりが植えられたり花が供えられたり。セブンイレブンのご主人がT本さんに被災の状況を話しているのを聞く機会もあった。

<感想>

パンク修理(チューブ交換)講習やメンテナンスに応じていただいた、O湖さん、O橋さん、ありがとうございました。一方で行程の短縮につながり、申し訳ありません。

今回初めてご一緒させていただいた、凜とした自転車姿のS石さんご夫妻、N雲さんの仙台行きの話、M野さんのオイルで汚れた手を瞬時にきれいにする裏ワザ、O橋さんの実力アップガイダンスなど、今回も、皆さんに良い刺激をいただきました。

いつも思うのが、H本さん、どんな姿で走っていらしたのでしょうか…。切符の手配ありがとうございました。

皆様、今回も充実した時間をありがとうございました。

レポート(T本)

今回のクラブランは自転車を楽しむというよりは、震災の影響とそこで住む人々のその後の営みを知るのが中心でした。

今でも頭の片隅に残り、忘れられない3人の言葉を今回の記録として報告します。

出発地の湯本駅傍にある豆腐屋さんでアイスコーヒーを飲んだ際、そこで働いていた中年のアルバイト女性の言葉、「この建物は地震の影響でもうすぐ取り壊しになる。震災前は観光客も多かったが、今は放射能の影響もあり、殆ど人が来なくなった」。

被害のひどかった薄磯海岸にぽつんと立っていたセブンイレブンの駐車場で煙草を吸いながら声を掛けてくれたお店のオーナーさん、「津波はお店の屋根を超える高さで襲って来た。

この近くで90人以上の人間が亡くなり、地震の翌日はその回収が大変だった。お店の経営は大変で、誰も助けてくれないので赤字は自分で補填するしかない」。

到着地の泉駅で自転車をたたんでいる時に声を掛けてくれた(自転車4台を持ち、自転車が趣味の)中年の男性、「自分は大丈夫だったが、妹を、美空ひばり記念館の所で亡くした」。ほんの数十分前に、皆で休憩を取った海岸がその場所です。。

レポート(M野)

連休のなか日・・・ということか、早朝であったということか・・・

比較的電車も街の人波も空いている中、到着したいわき市湯本駅の駅前広場はとて静かでした。

部活動の待ち合わせ(らしき)高校生達が散見され、バス待ちのお年寄りがベンチでのんびり時間を過ごし・・・

なんともどかな、穏やかな空気が流れております。

10時16分到着予定のスーパーひたち7号は若干の到着遅れ。

この電車の乗車組を待つ間、ちょっとだけ自転車で街中を散策しました。

駅直結の商店街には今回H本さんが利用された日帰り銭湯や、T本さんが(こっそりと利用された)喫茶店兼お豆腐屋さん(本業はお豆腐屋さん)があり、10時前後のその時間にも地元の方が集っておられました。

「地元の方が連休なか日のこの時間に向かうなら、きっといいお店に違いない」と横目で軽くチェックをしながら駅前に戻り、スーパーひたち7号組と合流です。

最初のチェックポイントの「白水阿弥陀堂」は修復中のご本尊や本堂の荘厳なお姿は拝見出来ませんでしたが、平安末期に造られた綺麗なお庭と、開く時を選んでいるような濃いピンク色の蓮の花蕾がとても印象的でした。

S石さんのお話ですと、このお庭は知る人ぞ知る、アマチュアカメラマンの人気の場所、なんでも蓮の花群近くの岸辺から本堂を望むアングルが素晴らしいのだそう。

うん。確かに！

蓮の花を通して向こう側に本堂の朱橋を望み、本堂とその丸橋がお池に映って、それはとても美しいものでした。

蓮が満開になると、それは本当に絵のような風景であると容易に想像され、たくさんの方がカメラを手に夢中でシャッターを切る気持ちもわかります。

すれ違った、三脚ごとカメラを抱えた方に伺いましたら「あと2〜3日で見ごろかな」とおっしゃっておられました。

本堂・ご本尊・咲き誇る蓮の花・・・

次に訪れる時の楽しみにとって置くことに致しました。

夏井川の支流である新川と夏井川は、雨もすっかり上がったなか、夏草の匂いを浴びながらの気持ちのいいランでした。

(羽虫がやたらと突進して来るのが困りましたが・・・)

夏井川を抜けて臨んだ太平洋の砂浜は、湘南付近を見慣れている私には砂の色が黄色く感じられました。

キツネ色・・・というのでしょうか。

夏井川はわりと水量もある大きな川ですので、関東あたりの感覚でいうと河口付近は大きく開けて、そのまま海に流れ込む印象なのですが、夏井川の終着地点はそのキツネ色の砂浜が作る地形に阻まれて大きく蛇行し、小さい川幅に姿を変えて静かに海にそそがれています。

車などで通り過ぎる旅ですと、こんな川の変化などは見過ごしてしまいますね。

川を上流からずっと自転車で行っているからこそ感じる風景だと思え、自転車の良さも実感できた瞬間でした。

海沿いに走っていくと、やがて小名浜に到着します。

正直、言葉を失いました。

灯台のある岬を上り、走りおいたその先に見た風景は、繰り返しTVや新聞で見ましたが、なんとも実感が伴わず、現実を認識するのに私は少し時間がかかってしまいました。

宅地造成中の建設現場・・・？　とってしまうほど、建物のコンクリート基礎しかな

い街並みがそこにありました。

「ああ、ここは被災地なんだ・・・」と実感したのは、津波に耐えて残った立派な2階建ての戸建てのおおきな家を見た時です。

全ての窓が壊れていて、全ての窓に猛烈な水が通り抜けた形跡があり、家の中はほぼ空っぽで、でも、その家は基礎しかない住宅街区の中で敢然と自立して建っているのです。

目が離せず、不覚にも涙まで湧いてきて、イレギュラーな路面に不注意にも捕まり自転車ごと転倒してしまいました。

(後続の方、本当にすみませんでした)

街のあちこちにある、色鮮やかな「頑張るぞ」看板や壁へのペイントや、向日葵の花が目にも沁みる風景でした。

津波という現象は本当に不思議で恐ろしく、同じ街の中でも殆ど被害のない区画と、甚大な被害を受けた区画がくっきり分かれ、それはちょっとした高低差や地形の違いで生じるものだと、感じられます。

海開きを翌日に控え、銅鑼や和太鼓を鳴らして海岸そばの広場では復興イベントが行われていました。

本当に地元の方は力強い。でも一生懸命奮い立たせていないと気力が持たないのかもしれない・・・と、その風景をみて感じていました。

私はまだクラブランに参加して3回目程度ですが、今回のランは本当にいい経験をさせて頂きました。

何も出来ないのですけれど、何かしたいし、忘れてはいけない、と真に感じさせて頂きました。

ランを企画して頂いた O 湖さん、ご同行させて頂いた皆様、本当にありがとうございました。

レポート(N 雲)

仕事の関係で直前でないと予定が立たない状態が続き、久しぶりのクラブラン参加でした。

1、思いがけないルート発見

今回はO湖さんのこだわりのルートでしたが、まったりとした東北の夏と、震災の傷跡という両極のものをみることができました。震災に関しては忘れてはいけないことと再認識しました。

2、刺激

今回新しい会員の方(女性アスリート2名)と初めて走りましたが、なかなかの刺激でした。自転車が転んでも自分は転ばない運動神経の持ち主(M野さん)や、なんかバイタリティのあるT崎さん、等等。

3、情報

ヨーロッパ帰りのT本さんのドナウ川サイクリング情報や、O橋さんのルートルラボなど、いろいろな情報をもらいました。現役中にヨーロッパサイクリングをしたいと心に誓いました。

4、酒

やはり個人的には(私だけではないのは確実ですが)、走り終わったあとの酒が一番です。一人2本のビールはもちろんあっという間に終わってしまい、いろいろ飲んだようです。

いつも軽快な走りをされているS石さんご夫婦、周辺情報を提供してくれるH本さん、みなさん、ありがとうございました。楽しかったです。

レポート(H本)

7月15日湯本に向けて出発したがなんとなく気が重い。

3. 11以後此方の方面に来るのは始めてである。

湯本駅に到着後、T本さんと喫茶店でお茶をしながら店のオバチャンの話を聴く。

3. 11以後お客さんの数が戻っていないそうだ。

おまけに店の入っているビルも取り壊すそうである。

本当の意味での復興はやはり相当の年月がかかりそうである。

頑張ってもらいたいものである。

さて本日のツーリングも無事に泉駅で終了、列車内で上野まで懇談会をして解散となりました。

レポート(O 橋)

夏井川沿いを下り海岸線に出て見えた景色の左側は穏やかな海でした
対して右側の陸地側を見た時は言葉も出ませんでした。
一日も早い復興を願うと共に何らかの形でお役に立てればという想いでいっぱい
になりました。

最後に

湯本駅で身支度をしている時に地元の方から暖かい言葉で歓迎して頂き
とても嬉しい気持ちになりました、多分被災されていると思いますが相手を思いやる気
持ちってとても大事な事だと思った一日でした。

総括(O 湖)



「がんばっぺ！内郷、がんばっぺ！福島」 白水阿弥陀堂にて

地震と津波と原発事故による大規模災害。有史以来とか、千年に一度とも呼ばれる
「東日本大震災」から1年4カ月を経過しようという今夏。

被災から立ち上がり、復興への途上にある福島県いわき市を訪ねる7月度クラブラ
ンを企画しました。

この震災で、いわき市では424名もの多くの犠牲者がおられます(2012年7月1日
現在いわき市災害対策本部による)。

また建設した応急仮設住宅 3,472 戸のうち 3,283 戸は、いわき市外から同市内へ避難された方々が入居されております(同 7 月 13 日現在)。

いわき市外から同市内への避難者数は、23,260 名。うち 22,453 名 96.5%は福島県双葉郡 8 町村から避難されてきました(同 6 月 30 日現在)。いわき市庁復興支援室に問い合わせしてみたところ、その多くが原発災害により避難されてきた方々だそうです。

今回企画は、福島県いわき市域を自転車で移動することによって、犠牲者の鎮魂と被災の現況を学び、復興への道筋を展望したいと模索したものです。

また現地で見聞することは、遠からずやってくるであろう「首都圏大震災」の際に生き抜く備えともなろうかと。そのときは自身の安全を確保し、周囲と助け合って地域で生きることが求められましょう。

このクラブランがわたしたちの防災意識を涵養し、行動する一助となれば幸いに思います。

参考:いわき市災害対策本部週報(2012 年 7 月 18 日付)

http://www.city.iwaki.fukushima.jp/info/dbps_data/material/info/zhigai20120718.pdf